

表現運動系及びダンス授業における教師行動の研究

—教師の言葉かけに着目して—

発表者 櫻井 菜々
指導教員 大津 展子

キーワード：表現運動系及びダンス授業、教師行動、教師の言葉かけ

1. 緒言

平成20年の学習指導要領改訂により、小・中学校ではダンスが必修化された。しかし、小学校教員に行った「体育科の学習指導における苦手な領域について」のアンケート結果では、表現運動を苦手とする教員が女性20.7%、男性61.7%であった(松田, 2011)。伊藤ら(2000)によれば、ダンス授業は他の体育授業と比べ、直接的指導・マネジメントに多くの時間を費やしており、小集団や個人への相互作用が少なく、クラス全体を中心とした教師主導型の授業であるとされている。また、中村(2012)によると、教員の指導法研修・教材研究の実施状況は、平成21年度調査時の「実施している」25.6%から平成23年度調査時の59.2%に倍増していた。実施している割合が増えたものの、未だ不十分と感じる教員が多く、「実施していない」は40.8%となっている。そのため、今後も継続的に研修を行う必要があり、ダンス教育充実の鍵は教員にあるとしている。ダンス授業を充実させるために、未熟練教師と熟練教師の教師行動の違いを明らかにし、研修に参加して学ぶべき指導方法を明確にする必要があると考える。

そこで本研究では、初めて本格的にダンス授業に取り組む教師とダンス授業の経験値の高い教師の教師行動と運動学習場面の言葉かけに着目し、それらを比較検討することにより、ダンス授業におけるよい体育授業実現のための教師行動とその言葉かけを明らかにする。また、未熟練教師が行った授業での教師行動の再現性の有無を検討する。

2. 研究方法

2-1 被験者

a. ダンス授業に初めて本格的に取り組む教師

茨城県H市T中学校N教諭。2014年7月30日にI大学O教諭のダンス実技研修会に参加。以下、未熟練教師とする。授業実践は茨城県H市T中学校1年生の女子を対象に行った。

b. ダンス授業の経験値の高い教師

I大学O教諭。学校体育実技指導資料第9集「表現運動及びダンス指導の手引」作成協力者である。以下、熟練教師とする。授業実践は茨城大学教育学部の学生を対象に行った。

2-2 調査方法

未熟練教師(2014年11月4日)と熟練教師(2014年11月7日)の授業VTRの比較・検討を行った。未熟練教師の単元計画は、学校体育実技指導資料第9集「表現運動系及びダンス指導の手引」を基に立案したものであり、VTRは第2時間目である。熟練教師のVTRは、I大学の講義「体育科内容研究」の1授業として実施されたものである。

2-3 調査項目

a. 体育授業場面の期間記録

高橋ら(2003)による「体育授業場面のコーディ

ングシート」を使用し、VTRを「インストラクション(I)」「認知的学習場面(A1)」「運動学習場面(A2)」「マネジメント(M)」の4場面に分け、各場面の合計時間量と全体の授業時間量における割合を算出した。また、出現回数を比較した。

b. 教師の相互作用の観察分析

VTRから指導言語を意味のある一つの文章または単語に区切り、逐語記録を作成した。A2における指導言語を「教師の相互作用行動の観察コーディングシート」(高橋ら, 2003)を用いて、相互作用を8つに分類し、相互作用行動の回数と指導言語内容を比較した。

c. 熟練教師へのインタビュー調査

熟練教師にダンス授業の指導のポイントや単元計画の作成方法についてインタビューを行った。

2-4 分析方法

本研究では、「体育授業場面コーディングシート」「教師の相互作用行動の観察コーディングシート」、逐語記録を用いて、未熟練教師と熟練教師の授業場面の割合と運動学習場面における言葉かけについて比較・検討を行った。

3. 結果と考察

3-1 授業場面の時間と割合、回数の分析

a. 未熟練教師

表1 未熟練教師の授業場面の時間と割合、回数

	I	A1	A2	M	全体
時間	18分40秒	1分10秒	19分25秒	7分5秒	46分20秒
割合	40.28%	2.51%	41.90%	15.28%	99.97%
回数	11回	3回	8回	13回	35回

b. 熟練教師

表2 熟練教師の授業場面の時間と割合、回数

	I	A1	A2	M	全体
時間	16分15秒	0分	29分35秒	2分40秒	48分30秒
割合	33.50%	0%	60.99%	5.49%	99.98%
回数	31回	0回	31回	8回	70回

A1が0分となったのは、今回の授業は大学生に行った模擬授業のため、時間の関係上学生が創作する時間を設けることができなかったからである。

3-2 A2における相互作用行動の回数と指導言語内容

a. 未熟練教師

表3 未熟練教師の相互作用行動の回数

発問	肯・一	肯・具	矯・一	矯・具	否・一	否・具	励まし	総数
10	18	4	0	20	1	1	7	61

言葉かけの内容は、生徒の行動を実況中継することが多く見られた。

b. 熟練教師

表4 熟練教師の相互作用行動の回数

発問	肯・一	肯・具	矯・一	矯・具	否・一	否・具	励まし	総数
19	16	4	3	50	1	6	1	100

否定的な言葉かけが7回であるが、学生に何が良くないのかを明確に示し、改善法を考えさせていた。また、本時の学習課題である「止まらない」

の言葉かけが7回であった。

3-3 ダンス授業におけるよい体育授業実現のためのしかけ

熟練教師のインタビューから、教師行動では、「教師自身がダンス教材を可視化する」「テンポよく行うために、見る時間とやる時間を区別しない」「触る・握ることでコミュニケーション能力を向上させる」「恥ずかしがる生徒を否定・注意するのではなく、できている生徒をほめ、よい動きをする雰囲気を作り、これをルール・文化にする」などを大切にしているということが明らかになった。

3-3 未熟練教師と熟練教師の比較

a. 授業場面の時間と割合、回数の比較分析

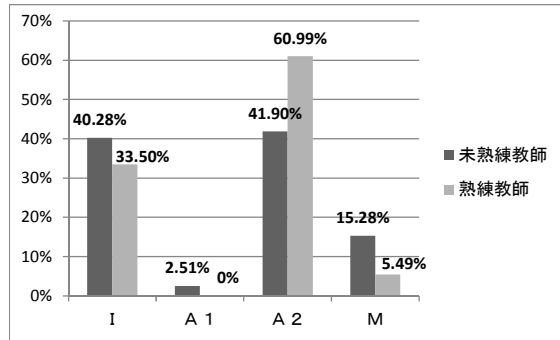


図1 各授業場面の比較

図1から、未熟練教師は熟練教師よりIとMにおける割合が多く、A2は少ないことが明らかとなった。これは、未熟練教師は班分けや説明に多くの時間を当てており、熟練教師は次の活動の説明が短く分かりやすく行われていたことが推察される。回数比較では、熟練教師は見る時間と表現する時間を区別しないため、IとA2の切り替わりが多く、Mは少ない。

高橋ら(2003)によると、A2は最低50%を確保し、Mは20%を超えないようにすべきであるとされている。本研究のA2では熟練教師が60.99%と理想の割合を約11%超え、未熟練教師は41.9%と約8%満たなかった。また、熟練教師が未熟練教師よりも約19%多かった。Mでは、熟練教師が5.49%、未熟練教師が15.28%とどちらも20%以下であった。

b. A2における相互作用行動の回数と指導言語内容の比較

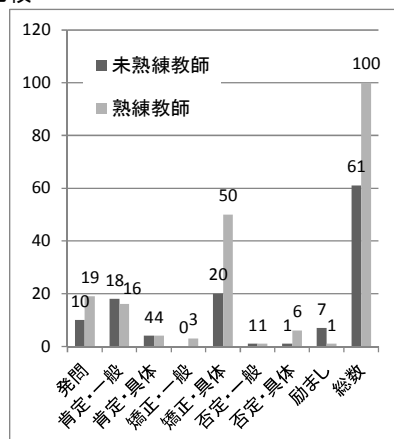


図2 相互作用回数の比較

A2における相互作用行動の回数は、両者とも肯定的・具体的が最も多かったが、図2で比較する

と、熟練教師の方が30回多く見られ、総数でも39回の差が明らかとなった。これは、熟練教師が学生に求める姿が明確であり、よい動きを理解できているためと推察される。特に回数差がストレッチ場面で多く見られたことから、熟練教師は正しい方法を理解し、ストレッチを心と体をほぐす運動として有効に行っていると推察される。

さらに、指導言語内容では、熟練教師は本時の学習課題「止まらない」の言葉かけが多く見られた。未熟練教師は本時の学習課題の言葉はなかったが、熟練教師と同様、課題を達成するための「大きく」や「ゆっくり」などの言葉かけを繰り返していた。しかし、教師の示範において声の調子や教師自身が体を使った指示の仕方の違いから、熟練教師はよりイメージのしやすい言葉かけになっていると考えられる。熟練教師と一緒に活動を行って見本を示し、励ましよりも学生と共感することで技能的学習を促進させていたと推察される。また、学習従事者・非学習従事者への言葉かけの違いが見られた。学習に取り組まない生徒を否定して引き込むのではなく、よい動きをほめ、ダンスが楽しいという授業の雰囲気づくりが大切となってくる。加えて、熟練教師は「どのくらいの強さが気持ちいいかな?聞いてごらん」「人の手はあったかいね」など、人と接触してコミュニケーションをとれるような言葉かけが行われていたことから、ダンス授業で動きの技術だけでなく、人と触れて関わるというダンスの特徴を生かし、人と関わる術や楽しさも伝達していると推察される。

3-4 未熟練教師の再現性の有無

未熟練教師と熟練教師の授業を比較して、合図のために太鼓を用いたり、スキップのまま移動したりと授業の指導方法や本時の学習課題達成のためのポイントを繰り返して言葉かけすることに教師行動の再現性が見受けられた。しかし、A2とI、Mの割合で差が見られた。また、教師の相互作用の回数と指導言語内容でも違いが見られたことから、1回の研修を受けただけでは、よいダンス授業を行うことは難しいと考えられる。実際に教師自身がよいダンス授業を受け、動くことでどのくらいの運動学習量が必要かを感じ、聞き取りやすい言葉かけを学ぶことが必要であると推察される。

引用参考文献

- 松田恵示(2011) 小学校女性教師にとっての「体育」の学習指導. 体育科教育. 大修館書店: 東京, 59(12) pp.26-29.
- 伊藤美智子、岡沢祥訓、林信恵、北島順子(2000) ダンス授業における教師行動に関する研究: ダンス授業と他の体育授業との比較
- 中村恭子(2012) ダンス教育の展望と課題. 体育科教育. 大修館書店: 東京, 60(1) pp.18-21.
- 高橋健夫・吉野聡(2003) 体育授業場面を観察記録する. 体育授業を観察評価する. 明和出版: 東京, pp36-39, pp170-171.
- 高橋健夫・中井隆司(2003) 教師の相互作用を観察する. 体育授業を観察評価する. 明和出版: 東京, pp49-52, pp180-181.